



いのちの水 生きている川

～みんなの手で、かながわの水を守り、育て、つなげよう～

このリーフレットでは、県内各地の小・中学校における川や池、水を題材にした学習の実践例を紹介しています。川や池には多くの生き物が生活し、それらは私たちの生活を豊かにするとともに、潤いを与えてくれています。学校や地域での自然の観察や生き物の飼育などを通して、生き物の誕生や成長、生命の大切さについて学んでいきましょう。

また、自然の仕組みの素晴らしさを知るとともに、私たちのいのちの源である、水について調べたり、限りある水資源を大切に守っていくことについて考えたりしていきましょう。

「STG's ～持続可能な鶴見川の豊かさを目指して～」

学校から川沿いを河口へ下っていくと、ごみがたくさん。でも、河口にある干潟に着くと、驚くほどたくさんのカニがいました。汚いのに生き物がたくさんいるのはどういうことなのかと疑問をもち、専門家の鶴見川流域ネットワークに取材しました。川の歴史や生き物の豊富さ、水質はきれいだというのを教わりました。絶滅危惧種のウナギやメダカ、アユも泳いでいることを知り、鶴見川への見方が変わりました。しかし、今度は新たな疑問が生まれました。水質はきれいなのに、なぜごみがあるのかと。答えは、まちにごみがあるからでした。もっと豊かな川にするために、まちのごみを減らしたい。でも、「ごみを減らそう」というマイナスキャンペーンはしたくない。それなら、私たちが感じたことをまちの人たちにも感じてもらおうと、ツルスイ（鶴見川水族館）を計画しました。また、たくさんの人に興味をもってもらうために、魚をキャラクター化して、アイドルならぬ、アイゴルグループを結成しました。イラストから川への関心を高めようというアイデアで、グループ名は「TSURUMIGAWA 20（つるみがわトゥエンティー）」。川に関する歴史や水質、生き物に関するポスター展示と、20種の生き物で鶴見区役所1Fホールにツルスイをオープンしました。アイゴルなので、鶴見川のことを歌っているオリジナルソングでお迎えしました。アンケートには、「たくさん生き物がいることに驚いた。」「ごみに目を向けるきっかけになった。」など、伝えなかったことがまちの人たちに届いていることが分かりました。この活動は、「持続可能な」とある通り、続けていくことに意味があります。来年も、再来年も活動が継続できるよう、これからも様々な方とつながり、未来の鶴見川を創造していきます。



鶴見川ネットワークの方との生態調査



区民の方への説明会を開催

よこはましりつつるみしょうがっこう
(横浜市立鶴見小学校)

磯中SDGsを通して学ぶ「海の豊かさ」と「安全な水」

大磯中学校1年生は「磯中SDGs～磯中のためにできること～」をテーマに設定し、総合的な学習の時間の中で、様々な課題について学んでいます。国連で採択された「持続可能な開発目標」の17の目標の中から、生徒にとって身近なテーマをいくつか取り上げ、学習を積み重ねた上で、最終的には将来の大磯町について考える取り組みにつなげていきます。2学期の取り組みの中では、「目標14 海の豊かさを守ろう」「目標6 安全な水とトイレを世界中に」の実験・観察を行いました。

大磯中学校の目の前には、美しい海が広がっています。しかし近年、人間の生活から生まれるごみが、海に流れ着いていることが大きな問題となり、その現状について調査・観察することによって、海の生態系を守るための取り組みについて考えました。

まず、大磯町郷土資料館の学芸員の北水慶一先生から「大磯の海岸や生態系について」の講話を聴き、大磯の海岸に流れ着いた漂着物を見た生徒の中からは、驚きの声も上がりました。その後、実際に海岸へ行き、漂着物について調査し、特に、自然界で分解されることのない海洋プラスチックごみを中心に調べました。海岸で調査した日は、ちょうど雨が降った日の翌日だったこともあり、思わぬ漂着物を発見する生徒もいました。

また、安全な水の大切さを学ぶために、ペットボトルとグラウンドの砂や石を使って、簡単なろ過装置を作り、泥水がろ過されるまでの過程を観察しました。きれいな水ができるまでには時間がかかり、普段、蛇口をひねれば、きれいな水が出てくるのが当たり前の生活を送っている生徒も、実験を通して、きれいな水を作ることの大変さを実感したようです。

SDGsと聞くと、遠い世界のここのように感じていた生徒もいましたが、実験・観察・調査を続けることによって、自分たちの生活に関わる問題としてとらえられるようになってきたと感じます。特に、水は生きていくために必要不可欠であり、水に関わる問題は命に関わる問題であると言えます。生徒には、自分ごととして、また自分が暮らす地域の問題として、これからも水を守り、育てる意識を持ち続けてほしいと思います。

(大磯町立大磯中学校)



ろ過装置の材料



完成したろ過装置

寄の自然を調べよう

5年生の総合的な学習の時間に、地域の身近な自然を調べました。子どもたちは、自分たちが住む寄地区が自然豊かだと漠然と感じてはいましたが、「昔よりも魚が減ってきている。」といった話も聞き、心配になったようでした。まず、毎日見ている中津川の生き物調べを行い、カジカやアブラハヤ、カジカガエルなど、きれいな水に棲むといわれているたくさんの生き物を確認することができました。自然が保たれていることを確認し、一安心した子どもたちは次に、「上流はどうなっているのだろう。」と興味をもち、県の水源林になっている中津川の上流（寄沢）に見学に行くことにしました。緑豊かな森林に足を踏み込み、手入れされた森林は、生き物はもちろん、川の水や山を育てていることを知ることができました。

(松田町立寄小学校)



中津川の生き物調べ

めくじりがわ 目久尻川リバーサイドウォーク

海老名小学校の東側を流れる目久尻川は、「目が当てられないほど川岸がくじられる（削られる）川」という由来をもつ程に浸食作用の強い川で、左右にうねりながら座間丘陵の間をぬうように流れています。護岸されている現在は氾濫することはありませんが、かつては暴れ川で近隣の村落は水害に悩まされていたようです。

そんな目久尻川を5年生が校外学習で訪れました。目的は、理科の「流れる水のはたらき」で学んだ浸食・運搬・堆積の作用を観察するためです。教科書で学んだカーブの内側と外側の流速の違い、削られた川底や丸い石が堆積した河原を実際の川で観察する貴重な体験になりました。さらに大きな視点で目久尻川の両岸に目を向けると浸食作用によって河岸段丘になっていることが観察できました。土地の形状も変えてしまう流れる水のはたらきの大きさに驚いていました。

(海老名市立海老名小学校)



川底の浸食の様子を観察



カーブの内側と外側の流速の違いの観察

ゆがわら 湯河原の海にはどんな生き物がいるの？

東台福浦小学校では、6月に全員を対象にした「いのちの講演会」で、特定非営利活動法人ディスカバーブルーの方から相模灘に棲む生き物について教えていただきました。そして7月に3・4年生が学区にある海岸の磯に行き、実際に生き物を探して触れてみるという「磯の生き物観察会」を行いました。その様子は8月にテレビ神奈川の番組で「いのちの授業」として取り上げられました。

海岸の石をひっくり返してみると、カニやウニ、ナマコ、ヤドカリ、様々な種類の貝など、たくさんの生き物がいます。潮だまりには小さな魚もいました。子どもたちはこれらの生き物を手でつかまえてはケースに入れることができました。最後に、真鶴町立遠藤貝類博物館の方々から集めた生き物について説明を聞き、そっと生き物を海に帰しました。

学校に戻った子どもたちは活動を振り返り、地域の豊かな自然を実感するとともに、「いのち」の不思議さや尊さなどたくさんの学びを文章に綴ることができました。

(湯河原町立東台福浦小学校)



海岸の磯で生き物を探す



磯で見つけたたくさんの生き物



生き物についての説明

つじどうかいがんと とりくみ 辻堂海岸をきれいにしよう～「海ゴミゼロプロジェクト」の取組～

3年1組では、総合的な学習の時間で「海ゴミゼロプロジェクト」に取り組んでいます。タブレットを使って海の環境についていろいろと調べたり、教室のゴミの様子を観察したりしているうちに、「辻堂海岸にみんなでゴミ拾いにいこうよ」という声が上がリ、実際に出かけてみるようになりました。

当日は、保護者の方も参加し、目の前の江の島はもちろん、伊豆半島から箱根の山々、そして富士山と素晴らしい景色を眺めながらビーチクリーンを行いました。

普段から地元のサーファーの方たちなどが海岸清掃をしてくれているため、ゴミの量は想像していたよりも少なかったのですが、学校に帰ってきてから細かく分別してみると、やはり細かいプラスチックゴミがかなりありました。その後、こどもたちは、「辻堂フェスティバル」という行事で動画を使って全校に辻堂海岸のゴミの様子について発表したり、1・2年生に直接プラスチックゴミの実物を見せたりしながら「海ゴミ問題」について伝える活動を行いました。

今後も「海ゴミゼロプロジェクト」はまだまだ続きます。こうした活動を通して、自分たちの住む身近な地域の自然に関心を持ち、辻堂の豊かな自然環境を大切に守っていかうとすることこどもたちが育ってくれることを願っています。

（藤沢市立辻堂小学校）



ゴミの分別作業の様子

うめだがわ せいぶつかんさつかい 梅田川 生物観察会

12月に梅田川の遊水地で、川の管理者と地域の川を守る団体による生物観察会が行われ、昨年度に引き続き、三保小学校と新治小学校の児童と教員が参加しました。川を守る団体や先生たちをはじめとする大人で、外来種の駆除のためにかいぼりを行ったり、どんな生物がいるのか調べたりしました。大きな外来種のコイやブラックバスなどが主に捕獲されました。そして、それ以外の生物について、専門家の方に見てもらい、地域の団体や子どもたちで、生物をそれぞれの仲間に分けました。その後、梅田川の環境とともに、どんな生物がいるのかについてのお話をうかがいました。梅田川には、昔からいる貴重な生物の在来種やどこからか外から入ってしまった外来種がいることがわかりました。子どもたちは、熱心にメモを取りながら、話に夢中になって耳を傾けていました。参加していた6年生の中では、早速、メダカ広場周辺の清掃をしたいという思いを団体の方に伝え、これから自分たちにできることを行動に移そうとする姿が見られ、頼もしかったです。

（横浜市立三保小学校）



生息している生物の学習



地域の人たちによるかいぼり